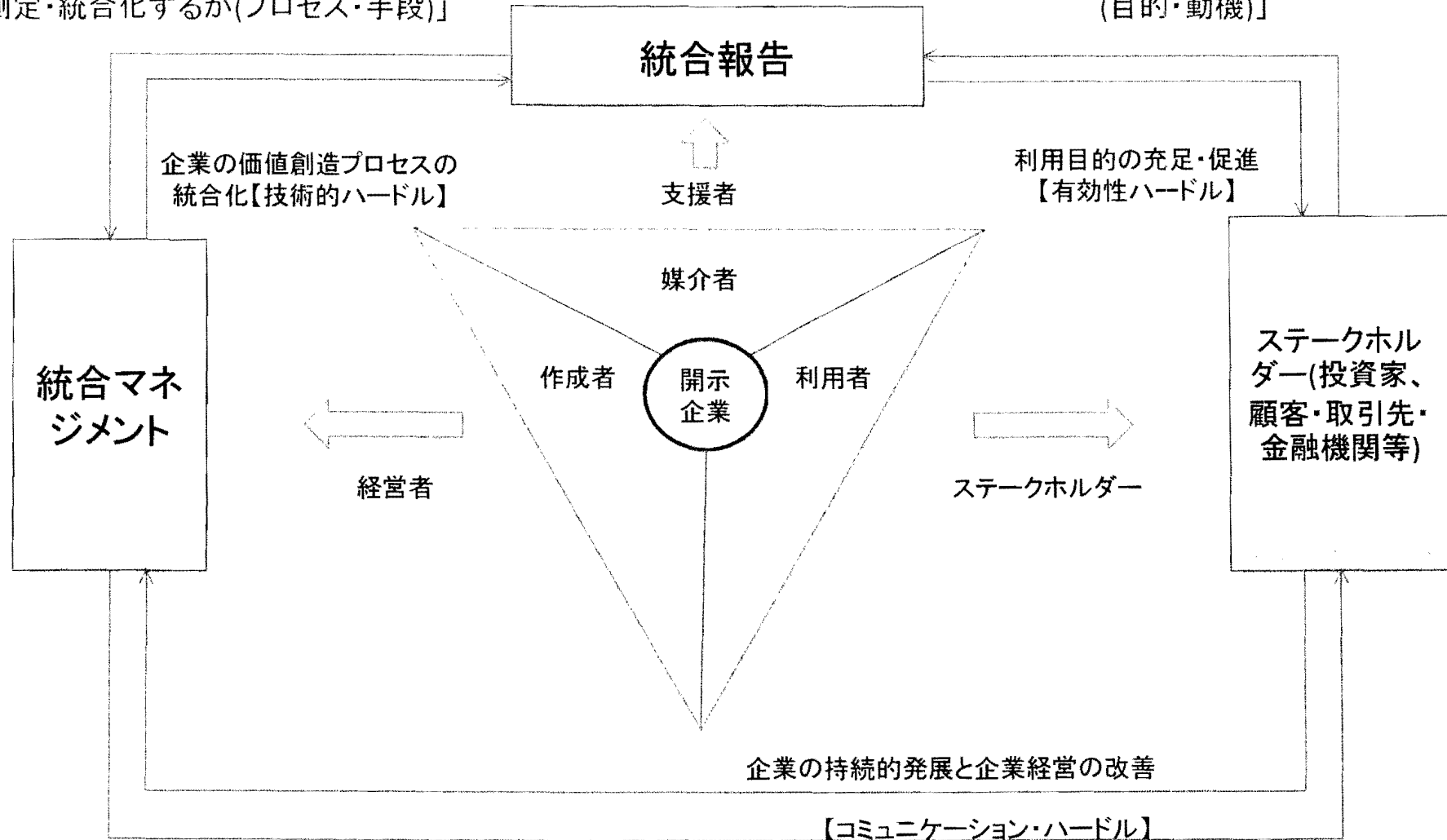


# 統合レポートティングの可能性と課題

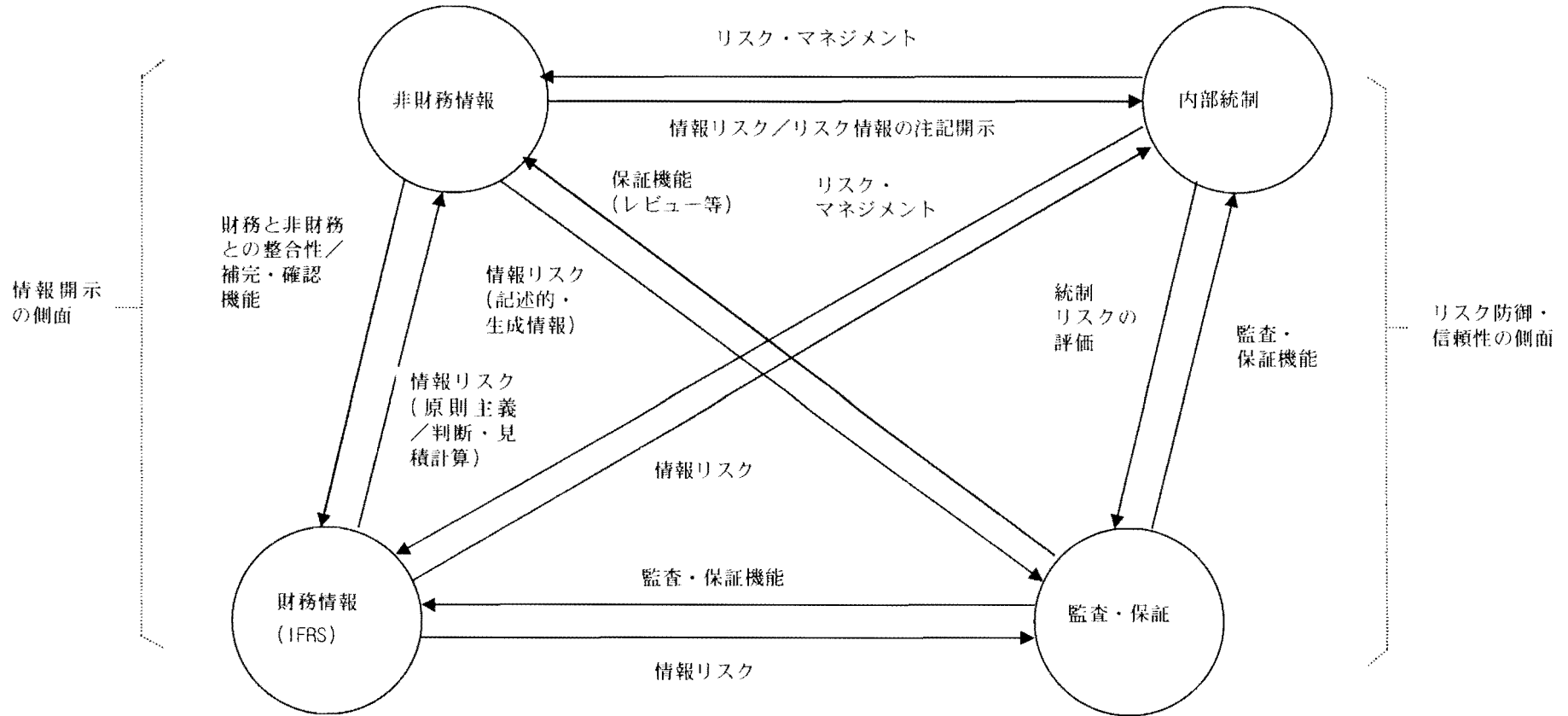
「論点2:「自社の強さ」をいかに認識・測定・統合化するか(プロセス・手段)」

「論点1:何のために作成するか(目的・動機)」



「論点3:その効果はいかに(結果)、また、いかにして企業価値の更なる促進を図るか」

図表1 財務、非財務、内部統制および監査の相互補完関係



図表2 ステークホルダーの視点から見た知的資産経営報告書の問題点とその対応

ステークホルダー	知的資産経営報告書の問題点	統合報告フレームワークによる対応
取引先企業(商社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから目指す新商品、事業活動の方向性に関する情報が欲しい(近畿経済産業局、報告書、37頁)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合報告の【将来の展望】では、事業活動の将来的展望を含む事業機会、挑戦的課題や不確実性、および事業戦略や将来業績についてのインプリケーションの記述が必要</li> </ul>
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の強みがどのように将来の利益やキャッシュ・フロー、市場変化への対応力、競争優位性につながっているのか書いてもらいたい(同、38頁)。</li> <li>・KPIは、財務諸表と関連性があるものは信憑性を感じる(同上)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合報告の【業績】欄では、KPI等の指標を含む定性的情報と定量的情報を提供。過去と現在の業績、現在の業績と将来の見通しとの相互間の明確な結びつきが必要</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界全体の成長性等の市場環境や業界の中での自社の位置づけ、企業の将来性等については、書けている企業が少ない(同上)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合報告の【リスクと機会】を含む事業環境について、重大なリスクと機会を含む事業体が事業活動を行っている環境について記述</li> <li>・企業の将来性等について【将来の展望】参照</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱みについて、思い切って弱みを書き、こういう対策をとっているから大丈夫だというストーリーをきちんと見せなければ、当該企業への評価・信頼へとつながる場合もある(同、38頁)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の【リスクと機会】欄において、自社の弱み(リスク)とその対応(リスクマネジメント)の明示による報告書の信頼-弱みを克服するための取り組みやノウハウ</li> </ul>